

2019年3月28日

日本英文学会事務局御中

「海外研究者招聘後援事業」申請書

(1) 今回の国際学会の名称、日時、開催地ならびに運営母体

事業：「国際学会 the Second Annual International Conference of the Modernist Studies in Asia Network (MSIA) “Modernism and Multiple Temporalities”」（国際学会 HP は作成中、参考として以下を参照：
<https://modernismasia.wixsite.com/main>）

日程：2019年9月12日（木）～14日（土）

開催地：青山学院大学文学部（青山キャンパス）

主催：「国際学会 “Modernism and Multiple Temporalities”」運営委員会

委員長：田尻芳樹（東京大学）

副委員長：遠藤不比人（成蹊大学）

委員：中井亜佐子（一橋大学）、佐藤元状（慶応義塾大学）、吉田恭子（立命館大学）、齊藤弘平（青山学院大学）、秦邦生（青山学院大学）

共催：青山学院大学文学部

後援：青山学院大学英文学会

(2) 概要：モダニズム時代の文学・文化現象を、「複数の時間性」という観点から多角的に照射し、モダニズム研究のさらなる国際化を図る

基調講演者：3名（アメリカから2名、イギリスから1名）

研究発表者：106名（日本英文学会会員推定24名、それ以外82名）

院生ラウンドテーブル参加者：11名（日本英文学会会員推定3名、それ以外8名）

上記以外の参加者50～100名程度を予想している。日本人参加者予定者の多くが日本英文学会の会員であると考えられる。

(3) 今回の国際学会開催の背景

The Modernist Studies in Asia Network (MSIA) 「アジア・モダニズム研究ネットワーク」は2017年秋に東京、香港、台北、上海、シンガポール在住の5名の研究者が中心となって新設された学術団体であり、「モダニズム」と称される19世紀後半以降の世界各地の文学・芸術・思想等の研究振興、研究者の学術交流を目的とする。2018年6月には香港教育大学で第一回国際学会が開催され、各国から50名以上の研究者が参加した。Advisory Boardにも世界各地の研究者が名を連ねている。

今回のイベントはそれに続く第二回の国際学会として企画されたものであり、発表公募には2018年末の締め切りまでに世界各地から約120名が応募した。このうち、セレクションを経て約100名が発表予定である。発表応募者の在住地別内訳は、日本31名、アメリカ合衆国12名、イギリス・シンガポール各10名、香港・中国・オーストラリア各9名、台湾6名、インド4名、イスラエル3名、フランス・ドイツ・トルコ・ベルギー・カナダ各2名、韓国・ギリシア・スウェーデン・ウガンダ・ポルトガル・ハンガリー各1名となっており、国際色豊かなイベントとなることが期待される。

(4) テーマ「モダニズムと複数形の時間性」

モダニズムにおける「時間性(temporality)」の問題は、伝統的には心理学的時間の観点から「意識の流れ」やテキストの断片性など形式的特徴に注目するアプローチから研究されてきたが、近年では広義のモダニティの経験自体が「時間性の政治学」(Peter Osborne)に規定されてきた経緯に注目が集まっている。「時間による空間の抹消」に関するKarl Marxの観察以来、支配的な時間性（例えばWalter Benjaminの

いう「均一で空虚な時間」や E. P. Thompson のいう「時間規律」など) が、資本主義、植民地主義、帝国主義などと共謀してきた様について、多くの批評家たちが研究を重ねてきた。そのような研究はまた、世界各地におけるモダニズムの内包する複数の時間性がそういった支配的イデオロギーに対抗してきた複雑な経緯にも注目している。

今回の国際学会はこのような動向を受けて、モダニズム研究の一層の拡張と刷新を試みるものである。2008 年の著名な論考“New Modernist Studies”において Douglas Mao と Rebecca Walkowitz は時間軸、空間軸、垂直軸（文化の高低に関する階層秩序）の観点から従来のモダニズム研究を拡張・刷新する洞察を示した。今回の国際学会は特にこの「時間軸」と「空間軸」との交錯に注目し、モダニズム概念自体の近年の急速な拡大が、世界各地での経験的時間の複数性に関する研究を要請していることを強調する。昨今浮上している「グローバル・モダニズム」という問題領域自体が、個別具体的なモダニティの「場」で生み出された複数の時間性同士の競合や葛藤によっていかに規定されていたのかが、今回の国際学会の中心的な問題提起となる。

(5) 今回の国際学会の意義

上述したような趣旨から今回の国際学会では英米文学研究を一つの機軸としつつも、その研究が生み出してきた洞察と相互に照合・呼応するかたちで他分野の研究をも呼び込み、活発な学際的交流の場を作り上げることがをねらいとしている。基調講演者は Douglas Mao、Laura Marcus、Aaron Gerow の 3 名を予定し、また 100 を越える個別研究発表の内容は、英米文学・文化研究を中心としつつ、(特に東西文化交流の見地からの) 比較文学研究、映画史、美術・デザイン史など多岐にわたっている。The Modernist Studies in Asia Network (MSIA)「アジア・モダニズム研究ネットワーク」では他学会との連携も重視しており、プログラムには北米を中心とした The Modernist Studies Association (MSA) のスポンサー・パネル 1 つ、国際 Ezra Pound 協会のスポンサー・パネル 2 つ、日本ヴァージニア・ウルフ協会と韓国ヴァージニア・ウルフ協会のジョイント・パネル 1 つも含まれる予定である。初日には院生ラウンドテーブルも開催し、次世代を担う研究者の育成にも貢献を試みる。

このイベントを東京で開催する意義としてはモダニズム研究のさらなる国際化への貢献がある。前述の通り近年急速に国際化したモダニズム研究ではあるが、その展開は MSA (1998 年創設)、The British Association for Modernist Studies (2010 年創設)、The Australasian Modernist Studies Network (2011 年創設) など、依然として英語圏を中心としたものだった。2017 年に創設された The Modernist Studies in Asia Network (MSIA) は今後、constitution (規約) の整備、正式な membership 制度の導入など、ネットワークの体制をより拡充する途上にあり、そのような過程で大規模な国際学会を東京で開催することは、グローバルなモダニズム研究へのアジア的観点の導入と同時に、日本におけるモダニズム研究のさらなる領域横断的な国際化にも資することだろう。

(6) 基調講演者 3 名の講演タイトルと主要業績

(1) Douglas Mao (Johns Hopkins University) “Time’s Mystique”

Solid Objects: Modernism and the Test of Production (Princeton University Press, 1998)

(Ed.) *Bad Modernisms*. Co-edited with Rebecca Walkowitz (Duke University Press, 2006)

Fateful Beauty: Aesthetic Environments, Juvenile Development, and Literature, 1860-1960 (Princeton University Press, 2008)

(2) Aaron Gerow (Yale University) “Explorations of Modernity in Japanese Film Theory”

A Page of Madness (BFI, 2007)

Visions of Japanese Modernity: Articulations of Cinema, Nation, and Spectatorship, 1895-1925 (the University of California Press, 2010)

The Research Guide to Japanese Film Studies. Co-authored with Mark Nornes (Center for Japanese Studies, 2009)

(3) Laura Marcus (University of Oxford) “Modernism’s Rhythmical Subjects”

Auto/biographical Discourses: Theory, Criticism, Practice (Routledge, 1994)

Virginia Woolf: Writers and their Work (Northcote House, 1997/2004)

The Tenth Muse: Writing about Cinema in the Modernist Period (Oxford University Press, 2007)

(Ed.) *The Cambridge History of Twentieth-Century English Literature*. Co-edited with Peter Nicholls (Cambridge University Press, 2004)

(7) 申請者

田尻芳樹「国際学会“Modernism and Multiple Temporalities”」運営委員会委員長（東京大学）
 遠藤不比人「国際学会“Modernism and Multiple Temporalities”」運営委員会副委員長（成蹊大学）
 佐藤元状「国際学会“Modernism and Multiple Temporalities”」運営委員会委員（慶應義塾大学）
 秦邦生「国際学会“Modernism and Multiple Temporalities”」運営委員会事務局長（青山学院大学）

(8) 海外から招聘する3名の基調講演者の経費試算

| | | |
|---------------------------------|----------------------|------------|
| 宿泊費：Douglas Mao | 18,000×4泊（9月11日～15日） | = 72,000円 |
| Laura Marcus | 18,000×4泊（9月11日～15日） | = 72,000円 |
| Aaron Gerow | 18,000×3泊（9月12日～15日） | = 54,000円 |
| 参加登録費 | 16,000×3名 | = 48,000円 |
| 航空券：Douglas Mao (economy class) | | 300,000円 |
| Laura Marcus (premium economy) | | 450,000円 |
| Aaron Gerow (economy class) | | 300,000円 |
| 総計 | | 1,296,000円 |

※以上の試算のうち参加登録料とレセプション参加費は確定、宿泊費ならびに航空券は概算である。

なお、今回の国際学会のおもな財源としては現在、二つの科学研究費補助金（基盤研究 B「現代英語圏文学におけるモダニズムの遺産継承に関する包括的研究」[課題番号 16H03393]ならびに基盤研究 B「英国モダニズムにおける反心理学の系譜に関する学際的かつ国際的研究」[課題番号 18H00653]）、青学英文学会からの補助金のほか、参加者からの参加登録料を想定しています（現段階では、専任教員 16,000 円、学生 8,000 円の予定）。

ただし、青山学院大学での高額の会場使用費を賄うために資金的には極めて厳しい状況のため、ぜひとも日本英文学会の後援をいただきたく、ここに申請させていただきます。本後援事業に採択となりましたらすぐに、日本英文学会からの支援を追記したポスターを作成・配布し、ウェブサイトにもその旨を明記したいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

「国際学会“Modernism and Multiple Temporalities”」運営委員会事務局長 秦 邦生